

・前掲書) というように発展する。このことは公立学校に附設された「子守学校」がなかなかこのように発展していかなかったことと、民衆の要求に一面においては根ざして「私塾」が、その要求に応じて一歩すすんだ組織を考えていくことができたことを考えあわせて考えると日本近代教育の形成そのものあり方を問題にしなければなるまい。

保育者としての赤沢ナカ(明治四年十一月生)はこのとき十八才の若さであった。「社会事業功労者調書」(新潟市・昭和七年)には彼女について「資性温良貞淑ニシテ夙ニ賢婦ノ名アリ 夫鍾美明治二十三年私宅ニ於テ静修学校ヲ開設シ学童ニ初中等等ノ教育ヲ授クルヤ其ノ生徒ノ弟妹中父母行商不在ノ為兄姉ヲ慕ヒテ同校ニ至ル者多シ女史是ヲ見テ兄姉ノ学業ノ妨ケトナルヲ憂ヒ此等ノ弟妹ヲ別室ニ誘ヒテ菓子玩具等ヲ与ヘ或ハ手芸唱歌等ヲ教ヘ愛撫訓育シタリシカ之ヲ聞伝ヘテ行商又ハ労務ニ妨ケトナルモノ女史ヲ訪ネテ其ノ幼児ヲ託スル者日日増加シ遂ニ数十名ノ多キニ上ル然レトモ素ヨリ何等ノ報酬又ハ料金ヲ受クルニ非ス献身的努力ヲ以テ保育教養シタリ斯クス

ルコト十有三年依託幼稚児保護ヲ加フルニ及ヒ明治四十一年夫妻相謀リ守孤扶独幼稚児保護会ト称シ之ヲ一般ニ公開シ幼稚児の收容ヲ増加スルト共ニ保母ヲ置キ又自ラ夫ト協力シテ専心之ニ従事シ以テ學生ノ事業トナス」といつている。

当時の保育内容についてはこれ以上知ることができない。自然発生的に生れてきていた「愛撫訓育」や「保護」が教育としてどう位置づけられるかということなどでも考えることのできなかつた時代である。だが「可憐」な子どもたちを暖く「保護」することこそ本質的にいえば国民教育の大きな課題であった。「幼稚園ノ原素」であるべき運動は決してそのままでは発展していかなかったことから、この課題は明治の教育からはずれおちてしまったのである。(六戸)



幼児の教育 第六十卷第十一号

十一月号 © 定価 六十円

昭和三十六年十月二十五日印刷

昭和三十六年十一月一日発行

東京都文京区大塚町三五

お茶の水女子大学付属幼稚園内

編集兼 津 守 真
発行者

東京都文京区大塚町三五

お茶の水女子大学付属幼稚園内

発行所 日本幼稚園協会

東京都板橋区志村町五

印刷所 凸版印刷株式会社

東京都千代田区神田小川町三ノ一

発売所 株式会社フレールベル館

振替口座東京一九六四〇番

◎本誌御購読についての御注文は発売所フレールベル館にお願いいたします。